

経済学

久保田知恵

2018 年 5 月 22 日

1 貨幣価値

1.1 円高・円安ってなんだ？

「円高・円安」などと騒がれてきたのは 1970 年ごろから。1971 年までは固定性だった（1 ドル 360 円）1971 年からは貨幣変動制となった。ドルなど他国の貨幣との対比で円高円安について語られることが多いため、円高・円安とは外貨が絡むものだという先入観が植えつけられている。

問題の回答 問題：日本国内の物価が上昇すると、円の価値が下落する。円安というのは、円の価値が下落するということである。故に、日本国内の物価が上昇すると円安になる。以上の推論は正しいか。

それぞれの文は正しい。一般に、日本国内の物価が上昇すると、円安圧力となる。

円の価値：日本国内でものを買うために必要な貨幣の量が必要になる円の値段：商品に対する円の購買力・国内市場における円の商品購買力

円の値段：外貨に対する円の値段・外国為替市場における

これを踏まえると、

日本国内の物価が上昇すると、円の商品購買力が下落する。円安というのは、他の通貨の購買力が下落するということである。

？外貨と他通貨って何が違うのか

例えば、日本で主に取引される仮想通貨は他通貨と言えるのか。「通貨が売り買いされる「マーケット」は外国為替市場だけ」

1.2 需要法則

例題：ペン 1 本が日本の市場では 1 ドルで販売されていた。為替相場は 1 ドル = 50 円であった。

1. このとき、為替相場にはドル高・ドル安どちらの圧力が作用するか。誰のどのような取引行為によってそのような圧力が作用するのか。というそのプロセスも示しなさい。
2. この相場変動圧力は「1 ドル = ~円」になれば消滅するのか。

回答：

1. 日本の需要者による対米輸入増大（ドル建て）がおこり、これにより、円売りドル買いが増大する。その結果、円安ドル高の圧力がかかる。
2. 1 ドル = 100 円になれば、日本で購入しても米国から購入しても 1 本のペンの値段が無差別になるため。
 - 実需の動きに基づく通過売買の増減（＝レート変動圧力）を発生させない為替相場基準
実需とは、この場合「ペンを使うため」ということになる。実需の反対の言葉としては、投機的需要という言葉が当てられる。
 - 各国内に置ける通過の商品購買力を反映した為替レート。
 - レート変動の重心：ここからレートがずれるとここに引き戻す圧力が発生する。

同じドル買いという行為に対して、買ったドルでペンを買うのか、為替により儲けたいから買うのかという違いが出てくる。後者は、値上がり益を求めての需要と言える。

参考テキスト:59 ページ為替のうち、1% は実需、その他 99% が投機的実需によるものである。

グラフの見方

長期的に見ると、赤い線を中心として実際の円相場は上下している。

1.3 確認問題

日本の景気がいいと、海外から日本に投資資金が流入する。その逆も然り。しかし、日本国内の資金が増減することはない。

投資家 A は日本の景気がよくないため、資金を日本からアメリカに移す。その時 A は円売りドル買を行う。

具体例：

1. A による円売りドル買 1 ドル = 100 円の時、100 万円売り、1 万ドルを買う。
2. C 銀行（日本支店では円預金、米国支店ではドル預金を扱う）
3. 日本：A の口座から C 銀行の預金へ 100 万円振り込まれる
4. 米国：C 銀行の預金から、A の口座へ 1 万ドル振り込まれる

A の口座から C 銀行に振り込まれたただけなので、日本国内でのお金の量は変わっていない。米国国内のお金に関しても同様。

2 円売ドル買の具体例

■貨幣価値という言葉の意味

- 外国為替市場
貨幣の価格
- 国内の財市場
- 貨幣市場
- その他
希少性（希少価値）

■問題 1-3 貨幣価値が下落すると物価が上昇するのか、それとも物価が上昇すると貨幣価値が下落するのか。

回答 1-3 日本政府が国民にお金を配布すると、国民の手元のお金が増える。すると、お金の価値（希少性）が下がり、気軽にお金を使えるようになる。需要が増大するため、物価は上昇する。お金の価値（商品購買力）は下がる。

■例題 03 1ドル＝200円で合った。この時円相場（対ドル）が変動し、その変動率は-20%であった。

1. 変動の結果1ドル＝何円になったのか。250円になった。
2. この時のドル相場（対円）の変動率を求めよ。25パーセント

3 需要と供給

3.1 需要と供給の定義

■例題 2 市場の鉛筆の供給量が1本であるとき、この鉛筆を欲しいと思っている人が2人いる場合、需用量と供給量とではどちらが多いということになりますか。

経済活動は、生産活動・分配活動・消費活動に分けられる。経済学の用語としては、需要とはただ単に欲しい・必要だという状況ではない。購買力を含め需要と行うことができる。反対に、供給とはただ与えることなく、価格が設定された上で市場に出されている状態を供給と言う。購買力・価格が示されていないので、例題2からは需要と供給にどのような関係があるかを断定することはできない。

需要＝購買力を伴う欲望 供給＝一定の価格の下での提供

■例題 2－改 市場の鉛筆の供給量が1本であるとき、この鉛筆を欲しいと思っている人が2人いる場合、需用量と供給量とではどちらが多いということになりますか。ただし、鉛筆1本の値段は100円で、Aの所持金は100円、Bの所持金は50円とする。

■例題 2－回答 Aは需要にカウントされ、Bは需要にカウントされるため、需用量＝供給量となる。このことを、需給一致状態、市場均衡状態、安定均衡状態であるという。特に、安定均衡状態は、価格を動かす力が市場には存在しない状態のことを言う。この時の鉛筆1本は均衡取引量で、100円は均衡価格である。

補足 鉛筆1本の値段が80円の場合、均衡価格が80円になるだけで、需給一致状態であることには変わらない。

限界費用逦増＝収穫逦減

3.2 需要法則を考えよう

価格が上昇したことにより、供給量が増大し、需要量が減少した。Cは市場から排除され、需要は一致となった。

表 1 My caption

価格	150 円	130 円	100 円
本数	1 本	2 本	3 本
収入	150 円	260 円	300 円
コスト	80 円	180 円	300 円
利潤	70 円	80 円	0 円

3.3 社会的余剰

A=150 円 B=130 円 C=100 円 社会的余剰=生産者余剰（利潤）+消費者余剰（消費者のお得度）

例 値段が 150 円だったときの生産者余剰と消費者余剰はどうなるかを考える。生産者余剰が 70 円、消費者余剰は 0 円なので、社会的余剰は 70 円。

値段が 130 円だったときの生産者余剰は 80 円、消費者余剰は 20 円なので、社会的余剰は 100 円。値段が 100 円だったときの生産者余剰は 0 円、消費者余剰は 80 円なので、社会的余剰は 80 円。

つまり、値段が 130 円のときにこの場合最も社会的余剰が大きくなる。ミクロ経済学において自由競争下では、市場均衡点において社会的余剰は最大となる。p 18,19 をかくにんすること

3.4 需要法則まとめ

需要が増大し、供給量より大きくなり価格上昇圧力がかかる。そして、需要量が減少&供給量の増大がおこる。需給一致点に達し、価格上昇は停止する。

需要量増減は需要増減とは違う。供給量増減と供給増減も同様に。____量は、価格変動の結果を表し、____増減は価格変動の原因となっているものと定義されている。

4 需給法則

4.1 需要曲線

脱落ということではないが、需要曲線は左に移動する。

4.2 供給曲線